

ショートプレゼン 第1ブース 音声テキストデータ

【株式会社 digglue】

今ご紹介に預かりました株式会社 digglue の松前と申します、よろしくお願いいたします。
我々どもは株式会社 digglue と申しまして、東京都新宿区神楽坂の駅の近くの方にオフィスを構えております。

元々は 2018 年創業でブロックチェーンの事業開発コンサルティングシステム開発等から、そこから資源循環といったテーマに対してトレーサビリティであるとか、CFP の 3 テーマを含めた環境価値の訴求といったところから事業の方をさせていただいております。

我々どもポスター展示しておりますのでぜひとも来ていただいて、お気軽にお声掛けいただけたらなというふうに考えております。

本日お話しさせていただきたい事項は大きく 2 点でありまして、1 点目がこの我々どもが埼玉県様から委託を受けて実施したカーボンフットプリント（CFP）の算定支援といったものの内容をお話しさせていただければと思っております。

簡単に申し上げますと、埼玉県様から委託を我々どもが受けまして、6 社様に対して CFP の算定とその開示支援、実際に CFP を計算するところと、それを実際どうやって開示し、外にアピールするか、どうやって使っていきますか、みたいなものの支援をさせていただきました。

事業の背景と目的等とありますが、一言で申し上げますと、県内事業者様のサーキュラーエコノミーの取り組みを数値化させて、見える化するようなモデル事業でございます。

自己紹介が遅れましたけれども、私自身は当社に入社する前には PWC と EY といったいわゆる普通の監査法人によって監査と、あとさらにその後、財務アドバイザーの仕事をしておりまして、その関連で CFP の算定も今お手伝いさせていただいているといったところでございます。

6 社様を選定させていただき、ここに書いております細かい情報がお知りになりたい場合には、情報先ほど埼玉県様等のホームページで開示されていますので、ご覧いただければと思っております。

算定して研修してさらにそれをどうやってコミュニケーションするか訴求するかといったところを支援させていただきました。

これはちょっとした計算のイメージですけれども、実際にやられた方は見慣れた感じかなと思いますが、いわゆるこの IDEA と呼ばれる一般的な CFP の単価を開示しているデータベースを使って、実際の会社様の活動に合わせて数値を集めてそれによって計算するといったことを支援させていただきました。

それによってどんなような開示イメージになってきたかという、これが実際の途中の計算の開示イメージですが、どうやって CFP の削減効果といったものが積み重なっていて、中間計算として 699 トン程度の効果があって、そこから本取組によってどれくらいのマイナス効果があつてみたいな感じです。

その内訳の明細をちゃんと出すような支援をさせていただいているといったようなイメージでございます。

最終的にどんな効果があつたかという、ここは具体的な個社の数字になっていますので黒塗りしていますが、例えばタイルカーペットフロアタイル等の開示を通じてバージン材の代替材による焼却回避等でいくら程度の削減があつたとか、個社の各社様のビジネスに則って、どういったような具体的な効果があつたかといったところを計算させていただき、それを開示させていただいたといったものをこの 6 社様に対してやらせていただきました

実際、6 社を横断的に見ますと削減の効き方といったものは主に 4 類型だったなというふうに思っております。

バージン材原料の代替、これはいわゆるバージン材を使うんじゃなくて再生材を使うことによって CFP を削減できたとか数量を減らすことによって 輸送数量にかかる CFP を削減することができた、製品の長寿命化といったことを会社の技術としてお持ちになられていたので、それを訴求することによって通常であればこれくらい使うところを実際はこれくらいの使用数量で済みましたみたいな話ですとか廃棄処分の回避といったところによって、CFP の削減につながりましたといったようなものを指したのが 主な累計でございました。

最終的に、どうやって具体的に見える化させるのか、お客様に訴求するのか、これをもって御社の皆様のビジネスがどれだけ新しい販路を開けるのかと、新しいビジネスにどうやってつなげるのかといったところをディスカッションさせていただいて具体的にこう見せましようといったところまでも支援させていただいております。

我々はそのサービスのことを今現在、CE パスポートといった名前でサービス展開させていただいております。

繰り返しにはなりますが、我々どもはそこでポスター展示しておりますので、具体的に皆様のビジネスにどう寄与するんだといったところの話が聞きたい場合には、どうぞお立ち寄りいただければと思っております。

細かい話ではあるんですけども、昨今 DPP と呼ばれるような文脈で、例えばそれがリチウム電池や繊維とか、それはいわゆる大きな会社さんに対するレギュレーションではルールではあるんですけども、その大きな会社さんのサプライチェーンの中に組み込まれている。

つまり、大きなお客さんのサプライヤーそのサプライヤーみたいな形でいわゆるそれは CFP の Scope 3 というのも関わっていますけれども皆様が具体的にどういう良い活動をしているのかとそれがいかに CFP の削減につながっているのかといかにそれが資源循環の関係から素晴らしい活動をしているのかと、そういったことをやっている場合においてですね。

それを皆様アピールすることによって、それが皆様の収益につながるというコスト削減だけではなく、新しいお客様の販路に繋がったり、あるいは新しい選ばれるためのフィルタリングの足切りに引っかからないでとるか、そういった皆様の収益につながる可能性があるといったものがあるのかなと思っておりまして、そういった観点からもぜひとも皆様が選ばれるサプライヤーであり続けるために今まで自分たちがやっていることについて、第三者的にそれがどういうふうに見られるのかといったことを棚卸ししたいと、そういった場合があります。ポスターブースの端っこの方におりますので、ぜひともお声掛けいただけたらなと思っております。

どうもありがとうございました

【キムラセンイ株式会社】

キムラセンイ株式会社の加藤と申します。

弊社は古繊維業者で、古着の回収・選別・リユース・リサイクルを通じて循環型社会の実現に取り組んでおります。

本日はその中でも一部事業で布団のリサイクルに取り組まさせていただいており、布団の現場で感じる課題や可能性を皆様と共有できればと思っております。

早速ですが皆さんは毎日どんな布団で寝ていますか。私はマットレスに、今は暑いのでガーゼケット、冬は羽毛布団です。

人生の3分の1が睡眠と言われ、布団にお世話になっているのに分からないなんてことはないですよ。

布団の種類は大きく分かれて4種類に分かれます。

綿、羊毛、ポリエステル、羽毛です。

羽毛はダウン50%以上のもの、50%未満は羽布団と呼ばれております。

最近では圧縮できるもの、軽い布団やマットレスが人気です。

それでは2つ目の質問です。使用済みの布団がその後どのように処理されているのかご存知でしょうか。一部の会社様では布団の回収や下取りなども行っているところもございます。

布団の多くは主に粗大ゴミとして焼却処分が多く、粗大ゴミの中でも排出量ナンバーワンと言われております。

そして布団のリサイクル率は約2%と言われております。ちなみに、アルミ缶のリサイクル率は99.8%ですので、比較するとすごく低いことが分かります。

かつて日本では布団は高価なものであり、打ち直しをしながら長く使い続けることが当たり前でした。

しかし近年はライフスタイルの変化や、安価な寝具の復旧により打ち直し文化は年々減少しております。

その結果多くの使用済み布団が再利用されることなく廃棄され焼却処分されています。

本来はまだ資源として活用できる綿が燃やされている現状です。

人は多くの時間を布団の上で過ごします。

だからこそ、その役割ではなく使い終えた後まで改めて考える時代ではないでしょうか。

当社は、布団は資源として循環できる可能性があると考えております。

現在当社では布団は概ね、リユースとして活かしております。

またリユースが難しい布団に関しましては、再生綿としてリサイクルを行っております。

布団の外側の生地を取り除いた後に素材ごとに選別して開綿機で丁寧にほぐし、ふんわりとした綿へ再生させます。

この後は同時にオゾン脱臭殺菌も行っております。

この再生綿の出口、そして布団の回収量も増やしたいと考えておりますので、この後のポスターセッションでもお気軽にお声掛けください。

本日はご静聴いただきありがとうございました。

少しでも布団の資源循環や繊維リサイクルについて知っていただける機会になれば、幸いです。

ありがとうございました。

【株式会社吉川油脂】

株式会社吉川油脂の高田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私どもは栃木県佐野市を拠点にしまして、廃食用油の回収・リサイクルを50年以上に渡り特化して、取り組んでおります。

本日は家庭用廃食用油の回収の現状と、埼玉県等における具体的な取組の実態と題しましてお話しさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず簡単に私どもの紹介をさせていただきます。

当社は1975年（昭和50年）の創業で、廃食用油の回収・リサイクルの備販売を専用としております。

社員数は現在151名と書いてありますが、最近また増えて今160名となっております。

社員のうち15名が知的障害者の方々と、生活サポートを受けながら自立社会復帰を果たしています。

当社の経営理念ですが、社会・社員、皆様に必要とされる会社を目指しますということで、この地域に貢献するという面でも大いに取り組んでいるところでございます。

こちらは当社のネットワークです。

本社工場のある栃木県をはじめ埼玉県では、八潮市に工場がございます。

それから福島、長野、茨城、神奈川それから北海道から千葉まで、神奈川も含めて協力会社を構成しておりますので、ほぼ東日本を網羅している状況でございます。

そもそも廃食用油（UC オイル）とはどのようなものかということ一度、お伝えいたします。

UC オイルは事業系なものと家庭用から配置されるものと、2 つに分かれておりまして、この事業系は食品工場、給食センター、飲食店、コンビニ、スーパーといったところから廃棄されますが年間で現在 40 万トン廃棄されると言われています。

一方で、家庭から出る廃食用油は年間 10 万トンと推計されております。

事業系はすでに回収ルートが確立されているのでリサイクルされていますが、家庭系の 10 万トンのリサイクル率は、4%から 5%と言われています。

少しずれますが、UC オイルの利用用途ということでこちらを見ていただければと思います。こちらに書いてありますように、トレーサビリティの取れているものは飼料用に使えるものが主なものとなっております。

家庭用につきましては、トレーサビリティは取れませんのでこちらは工業系に回ることになっておりまして、特に今話題となっております SAF に向けて、家庭用の油というものを回していく、このように私どもは考えております。

現在の国内の UCO 廃食用油の需要量ですが、国内では SAF の問題も含めて年間 230 万トン以上と言っていますが、現在の供給量は事業系のもののみとなると 40 万トンしかございません。圧倒的に足りないわけでございます。

このように年間 10 万トン発生している家庭用の油を未利用資源としてどのように活用していくか、今後の社会的課題解決についての課題となっているところでございます。

SAF についても、皆さんご存じと思いますが説明させていただきます。

需要拡大の最大の契約がこの SAF、持続可能な航空燃料となっております。

従来のジェット燃料に比べて 60%から 80%の CO2 削減効果があると言われておりまして、2023 年の G7 広島サミットでも SAF の導入促進が首脳宣言に盛り込まれました。

国内で 2030 年時点でのジェット燃料の 5%相当以上を SAF とする供給目標が掲げられています。こちらジェット燃料の 10% SAF を含めるということが法的に義務付けられるということになります。

当社も国内外のパートナーと連携して、特に ENEOS の和歌山工場が稼働するのを機に、こちらに原料の供給体制を築いていく計画としております。

ここから本題になりますが、私達は家庭用廃食用油の回収の具体的方法というのを工夫を凝らして回収をしようとしています。

従来、家庭用の廃食用油というのは自治体では広く行われてきましたが、自治体までわざわざ行かなければならないということではなく、消費者の皆様がご家庭の皆様がお買い物のついで買いに寄りやすいスーパーなどに協力を求め回収拠点を広げてまいりました。

それからこちらにリターナブルボトルと我々は呼んでいますが、こちらをスーパーで無償で消費者の方々に配り、ご家庭の方々が注ぎやすいように従来のペットボトルよりも口径が多く作ってありますので、鍋からそのままジャーって入れることがしやすいです。
この蓋を閉めることによって、漏れも少なくなり、写真にございますようにスーパーの一部に回収ボックスに入れていただくということで、店舗の負担もかけることなく自動回収をするこのような仕組みになっています。

回収されたこの油が入ったボトルは私どもで回収して新たに洗浄してきれいにしたものをまたスーパーに戻して、消費者の方々はそれをまた取って家庭で溜めていく、こういうことに取り組みをしております。

同時にペットボトルの回収も受け付けております。
ただ、ペットボトルは1回油がついてしまうとペットボトル自体のリサイクルというのが今現在の技術ではなかなか難しいということですので、サステナブルな取組ということで、私どもはこの専用ボトルというのを配って取り組んでおります。

こちらが実際に配られている回収拠点ですが、令和6年度埼玉県サーキュラーエコノミー型ビジネス創出支援補助金を利用させていただきまして、特にベルク・ヨーカ堂・ヨークフーズの店舗において、回収拠点を設置させていただきました。

ご覧の通り店内に設置されている場合もありますし、外に設置している場合もございます。いずれにせよ消費者の皆様が自由にこの中に油を入れたものを中に入れていただくことで回収ということでより集まりやすいような仕組みにしております。

ちょっと話は逸れますが、私どもはリサイクルループの見える化ということも取り組んでおりまして、特にこの家庭用の油を集める方が中心になりますが、新たにミニトマトの栽培というところにチャレンジしておりまして、ここのビニールハウスで使われるボイラーに廃食用油の重油の代わりに廃食用油を使っております。

こちらは今イトーヨーカドー、それからコープデリ連合会さんの方で取り扱っていただきますので、ぜひ見かけた場合はよろしく願いいたします。

サステナブルな取り組みは銀行様でも興味があるということで、こちら宮城県で取り組んでいる、SMBCのYouTubeチャンネルでも紹介されています。

こちらにご覧になったように、私どもで回収したものを洗浄して返すというところが示されておりますのでぜひYouTube、SMBC・廃食用油というところで検索していただくと出てきますのでご覧になっていただければと思います。

最後になりますが、私ども家庭用廃食用油を各自治体様と数多く連携協定させていただいております。

今、全拠点311箇所でございます。埼玉県では現在53箇所取り組んでおります。
特に埼玉県の自治体様としては、入間市様と協定を結ばせていただいております。

家庭系廃食用油は県民の皆様お一人お一人が参加できる最も身近な資源循環でございます。

埼玉県の皆様と連携をさらに深め拠点の拡大に取り組んでまいりたいと考えております。
ご清聴ありがとうございました。

【株式会社エコマテリアル】

株式会社エコマテリアル高田と申します。よろしくお願いします。
当社はプラスチックの完全循環で CO2 削減を実施させるということを行っております。

環境問題は世界共通で誰もが認識しています。環境破壊による地球温暖化で異常気象など、
今までに経験したことのない規模で目を疑う速さで進んでおります。

ご承知の通り人間の血液循環は動脈と静脈からなっています。
人間の体に動脈だけが発達していて静脈が欠落していたらどうなるでしょう。
当然、死にます。
今我々人類唯一のプラネット、地球は重い病気にかかっています。

病気の原因は動脈循環と静脈循環の極端なアンバランスにあります。
このアンバランスが原因で地球規模の様々な問題を引き起こしています。

環境破壊による地球温暖化で毎年暑さと熱中症予防のニュースが長期間報道され、また、たびたび起こる大規模な森林火災や豪雨災害、最近では異常気象がノーマルになるほど地球温暖化がもたらす影響は多発しています。
化石燃料由来のプラスチックはその製造の過程で大量の CO2 を排出しています。
プラスチックも温暖化を加速した一因と言えるでしょう。

そしてプラスチックが環境に及ぼす影響について、CO2 だけではなく、近年話題を集めている海洋プラスチック問題はクローズアップされて地球規模の対応が迫られています。

プラスチックは 20 世紀最大の発明と言われています。
ペットボトルから携帯電話まで我々の世界でプラスチック製品を見ないところはありません。
プラスチックは大量生産の歴史はわずか 80 年しかありませんが。その利便性とコストの優位性から、金属と並んで主要な工業素材となりました。
体積で計算するとすでに鉄鋼の使用量を超えています。

このスライドは、世界プラスチックの生産量です。
世界のプラスチックの年間生産量は 70 年間で約 200 倍に増えました。
2021 年時点では 3 億 9,070 万トンと推測されています。

中国をはじめとするアジアの生産量が急上昇しています。我が国日本も生産大国です。

近年までに人類が作り出したプラスチックの総量は 83 億トンになります。
問題はその 78%が廃棄されていることにあります。

金属のリサイクルに比べてプラスチックのリサイクルをしても価値が低く、また多種多様なため、かえってリサイクルしにくいことや、焼却処分によって CO2 排出されることなどから適正な処分がなされなかった結果です。

次は地球環境への弊社の取組を紹介したいと思います。

株式会社エコマテリアルはプラスチックのマテリアルリサイクルを専門とする会社です。
20 年間累計で約 100 万トンの廃プラスチックを再資源化し、約 300 万トンの CO2 削減、同じく約 300 万トンの原油節約を実現しました。

次に手前味噌ではございますが、弊社の強みを紹介したいと思います。

日本の各種リサイクル法と共に歩み 20 年間ミックスプラスチックの完全循環を実践してきました。

例えば家電リサイクル法の下、弊社は当初埋め立てや焼却されていた廃プラスチックを素材リサイクルに変えた先駆者です。

容器包装リサイクル法の下、弊社は容リ協会指定のペットボトル処理業者であり、また容リ協プラスチックのペレット利用事業者です。

その他、ミックスプラスチックのマテリアルリサイクルにおいてもパイオニアで業界トップの実績を誇っています。

使用された使用済みのミックスプラスチックはミックスプラスチックを由来とした、再生ペレットのほとんどは今まで品質においても安定供給にも保証がありませんでした。

そのため安かろう・悪かろうというイメージを払拭できず、大規模な水平リサイクルや不向きと言われていました。

弊社は世界最大のコンパウンドメーカーと単独提供によって、使用済みの家電プラスチックを由来とした再生ペレットの品質補助を可能にしました。

これにより大手家電量販店のプライベート製品の水平リサイクルが現実のものとなり、お客様の SDGs 経営の具現化の支援となりました。

弊社はミックスプラスチックを原料に自社工場の選別工程で樹脂別に原料にした上で、一次ペレットを製造しています。

プラスチックのリサイクルを困難にする最大の原因は多品種で物性の違う樹脂が混ざっていることです。

弊社は比重選別、工学選別、製電選別など複雑な技術を用いた一連のラインを導入することで、ミックスプラスチックの選別制度を飛躍的に向上させました。

水平リサイクルの実現はこの選別ラインがもたらしたといっても過言ではありません。

また 化学薬品を使うことなく線上には工場内の排水処理で浄化した循環水を利用しており環境も十分配慮しています。

次に埼玉県環境部様の下、2022 年 4 月からプラスチック資源循環法に対応するため、県内の実証にも協力しております。

実施事例を簡単に説明します。

回収された製品プラは当然ありのまま素材もバラバラでしたが 弊社でそれを受け入れミックスプラスチック処理設備に投入し破碎・洗浄・選別し樹脂別に分け再生ペレットを生産ペレットはその後物性検査を実施して品質基準に適合していることを確認しました。弊社で生産し販売した再生ペレットは国内製品メーカーで原料の一部として使用され、プラスチックパレットやゴミ箱に生まれ変わっています。

問題もありますが。一人一人が意識を変えることによってゴミとされていたものが再利用されているため、結果としてプラスチックゴミを減量していくことになります。そしてこのような小さな一歩から環境を守り変えていけるのです。

当社エコマテリアルは、これからも環境問題に積極的に取り組んでまいります。ご清聴ありがとうございました。

【東武商事株式会社&ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社】

では東武商事株式会社の方から、先に説明をさせていただきます。

当社、埼玉県と栃木県に工場を構えておりまして産業廃棄物の中間処理業を生業としております。

産業廃棄物の物性の分析計量証明事業と収集運搬、そして埼玉県と栃木県で中間処理を行っておりまして、中間処理までのワンストップソリューションを提供する企業となっております。

そんな当社が近年、資源循環の領域に足を踏み入れまして、その代表例としてユニリーバ様が推進している UMILE プロジェクトというところに参画をさせていただいております。

東武商事の役割としては、UMILE プロジェクトによって回収されたシャンプー、ボディーソープのボトル詰め替えパウチ、これらの破碎・フレーク化と、内容物の洗浄・除去を行わせていただいております。

これらの資源を使って、様々なアップサイクル品を展開させていただいております。ポスターセッションの方で実際のアップサイクル品をご覧いただけますので、どうぞそちらの方もご覧いただければと思います。

また、東武商事としては、これらの再資源原料を使って、感染性廃棄物回収容器のアップサイクル品を製造させていただきました。

これが元々の産業廃棄物の処理と資源循環とを繋ぐ独自の東武商事ならではのモデルであるという風に進めており、埼玉県の公募事業に 2 年連続で採択いただいて、またその他、様々なご支援をいただいて技術確立と実証実験の導入のところまでこぎつけております。

今後はこれを商用ベースまで昇華させましてビジネスとして成立させていくというところを
図っていく風に考えております。

こうした実績を踏まえまして今後再資源化というところに着手しようという企業様がおられ
ましたら、どうぞ後半にご相談をいただければという風に思っております。

特に東武商事としましては、特殊な洗浄方法を用いた内容物の除去というところに自信を持
ってご対応できるかなと考えておりますし、こういった事業モデルというところのそもそも
のところでもご対応できるかなという風に思っております。

まずは皆様と新しい資源循環の当たり前というものを構築していけたらという風に思ってお
ります。

さて、この中で今回ユニリーバ様の推進する UMILE プロジェクトについて触れましたが、こ
の後、ユニリーバージャパンカスタマーマーケティングの高瀬様より、詳しくご紹介いただ
きたいと思いますので、高瀬様よろしくお願いします。

ユニリーバージャパンカスタマーマーケティングの高瀬と申します。
ここからは我々の活動に関してご案内させていただきたいと思います。

まずはユニリーバについてご案内させていただきたいと思います。
ラックス、ダブというブランドをもちまして、世界約 190 カ国以上で世界の最大級消費材メ
ーカーとして活躍しております。

日本におきましては、1964 年に事業展開を始めさせていただいております。
輝く毎日を全ての人というパーパスをもとに、活動を実施しております。
ユニリーバのサステナビリティ活動に関してご案内させていただきたいと思います。

まず一つ目に、大きくプラスチックに関して活動を実施しております。
こちらに関しましては 2025 年の目標に関しましては無事に達成しております。
プラスチックに関しましては私たちが取り組んでいる最大の環境問題になっております。

ここからは日本における具体的な取り組みに関してお話をさせていただきたいと思います。
日本について 3 つ大きな取組がございます。
プラスチックの使用量削減、再生プラスチックへ切り替えそして使用済みプラスチック容器
の回収・再生となります。
プラスチックは私たちが取り組んでいる最大の環境問題になりますので、次のようなプログ
ラムを実施しております。

UMILE プログラムというもので、こちらはプラスチック回収を再生に加え、様々な SDGs アク
ションを支援しているプログラムになります。
具体的な活動をこれからお話しさせていただきたいと思います。

まず UMILE プログラムの参加方法なのですが、LINE アカウントのお友達に登録していただき
ます。

その次に、サステナビリティ活動として詰め替え製品の購入、使用済み空容器の回収、SDGsの取り組みへの参加・拡散を実施していただくことで、UMILE ポイントというものを付与させていただきます。

その UMILE ポイントを集めていただいて、使うという形で、エコグッズに交換していただいたりとか寄付したりとか、LINE ポイントの交換を実施することができます。

この UMILE プログラムを地域資源循環の取組として実施していただいておりますのが、先ほどお話をしていただいた東武商事様と埼玉県様と連携して実施をしていただいております。

こちらは回収したプラスチックから再利用して作ったものになります。

刺繍ワッペン、フェルトオーナメント、レジンアクセサリー、うちわ、サングラス、シューズ、カードケース、椅子などをプラスチックから再利用しております。

そして現在、セキ薬品様とメーカー問わず回収を実施させていただきおまして、回収したから容器からはセキ薬品の従業員さんにつけていただいている刺繍ワッペンなどを実施しております。

最後にですが、これまで活動実績から声がけしていただきまして、GREEN EXPO の活動に関しても徐々に始動しております。

以上が、我々の活動になっております。

ご清聴ありがとうございました。

【日榮新化株式会社】

日榮新化の本池と申します。

私たちの取組を発表申し上げます。

僕たちは左下の 6 社、異業種の共同運営によってラベル台紙の水平リサイクル事業に取り組んでおります。

簡単に、弊社日榮新化がフィルムのコーティングメーカーでのりを塗っています。あと、リサイクルをしています。

東洋紡さんがリサイクルできるフィルムの素材メーカーさんでいらっしやいまして、シオノギファーマさんがユーザーとして参画していただいております。

ラベルの用途で一番医薬品が、品質が厳しいという背景でございます。

TOPPAN さんがラベルメーカーさん、そして長瀬産業さんが海外展開と、あとはリサイクル技術のところで脱墨関係で一緒いただいております。

そして回収はヤマトグループのヤマトボックスチャーター様とパートナーシップを結んでおります。

こちらが実際に、シオノギさんの医薬品のラベルのサンプルになります。

これは医薬品に関わらず、例えば花王様でもパナソニック様でもご参画いただいている皆様の工場には、ラベルは左上の右上ですかね、右上のロールの状態でたくさんラベルが付いた状態で納品されます。

これが生産ラインで、自動に貼られていきますが、製品にラベルが貼られた後は、もう台紙がいらなくなって残ってしまいます。

これが、一見紙に見えますけれども、紙の表面に樹脂がコーティングされていてリサイクルが困難な材料であるということで、僕たち消費者には直接触れることは少ないです。が、ラベルの台紙というのが、日本全国で、年間で 13.9 億平米、琵琶湖 2 個分、東京ドーム 3 万個分ぐらい、毎年燃やされて廃棄されているという現状があります。

これじゃいけないよねということで、これまでの 3R からサーキュラーエコノミーへという日本の環境政策のトレンドもある中で、台紙を無理やりリサイクルするのではなく、我々6社の考え方としては、リサイクルを前提とした製品設計に変えていきたいと思いますということで、東洋紡様のポリエステル系の素材を使った台紙に置き換えて、水平リサイクルを実現しております。

官民連携という部分では、一番はやっぱり参画いただく企業の皆様、大企業の方が多いので、参画いただいてもご迷惑をおかけしないように、ちゃんと J 4 C E に参加をして、国の環境政策、そして都道府県の皆様とも連携をしながら、地方自治体様の環境政策を事業に反映させて、公益性の高い事業運営を心がけております。

実際、ラベルのサプライチェーンですけれども、弊社日榮新化で台紙と基材をのりで貼り合わせまして、TOPPAN さんをはじめとした印刷会社さんで印刷、そして成型加工をして最後ユーザーさんでラベルが貼られていきます。

これまでは使い終わった後、廃棄物として、主に産業廃棄物としてラベル台紙は廃棄焼却されていましたが、今回僕らはリサイクルを前提に設計しておりますので、有価物として使い終わった台紙を買い取るというスキームを運用しております。

コスト面も従来のラベルと同じコストで世の中に提供できるように、最初に合理化を突き詰めてから上梓をしております。

環境対応、それからコスト、品質、これらのバランスの取れた材料で展開をしております。こちらが台紙を変えても、印刷とか成型加工が、お客様におけるラベリングの適性が変わらないよという評価の結果を示しております、いずれも問題がございません。

こちらがこの事業の概略図ですけれども、シオノギさんをはじめとしたユーザーさんで発生するラベル台紙をヤマトグループと提携して、有価物として弊社が買い取ります。このヤマトさんの運賃も弊社が負担をしております。

この事業のために、もともと動脈企業でございました弊社が情報側にも投資をして専用リサイクル工場を 2024 年に竣工しております。

動脈企業が静脈に投資をすることによって、この資源循環を円滑に確立していこうというのが、僕らのコンセプトでございます。

リサイクルした材料は、東洋紡さんに販売をして、また台紙として、フィルムとして返ってくるというスキームでございます。

こちらがその専用の工場でございます、三重県でございます。

そして受入れの拠点としては、埼玉県川口事業所も集積拠点として活用しております。いろいろな事業に使えると思いますのが、このヤマトさんとの回収スキームでございます。

ヤマトボックスチャーターさんが運用している、ジェットボックスチャーター便という鉄力ゴ台車があるんですけど、これはヤマトグループのどこの事業所でも置いてある、単身引越しパックとかのヤマトさんのサービスに使われる鉄力ゴ台車を使えば、このボックス単位でチャーター料金が適用できまして、全国から何県から何県はいくらという、決められた合理的なコストで、回収スキームを構築できるというものでありまして、ぜひご活用いただきたいというふうに思います。

CO₂の可視化も、サーキュラーエコノミーがいいよということに加えて、しっかりと可視化を無料です、ということにも取り組んでございます。

現在この辺りがご評価いただきまして、56の団体様にご参画を賜って、事業運営を行っております。

そして、今年からフランスにも現地法人を設立いたしまして、欧州域内での同様のスキームの構築にも取り組んでいるところでございます。

今日は皆様ラベルご使用のお客様もいらっしゃると思いますので、1社2社様でもご興味をお持ちいただければと思います。

向こうのパネルの方に、会報誌等を置いてありますので、ぜひご自由にご覧いただければ、お持ち帰りいただければと思います。

ありがとうございました。